

# 欧州景気概況(2022年2月)

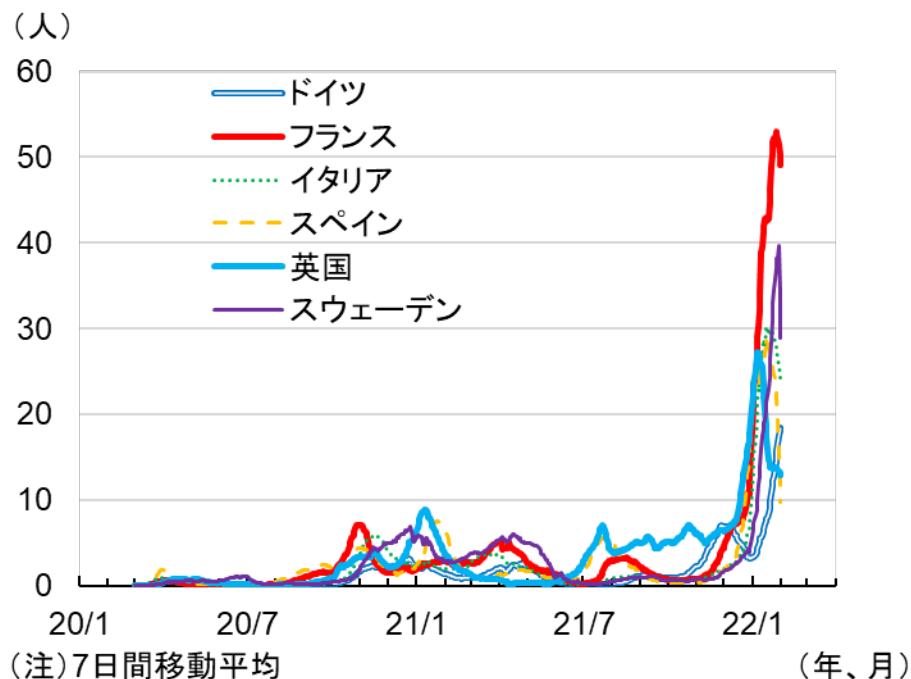
2022年2月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

# 新型コロナウイルスの感染状況

新型コロナウイルスの新規感染者数は各国とも増加テンポが鈍化しており、オミクロン株の流行はピークアウトした模様。重傷者の数が限定的なこともあり、各国は行動制限の緩和に乗り出している。一方でワクチン接種を実質的に義務化する国も少なくない。

### 人口一人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

### 主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	生活必需品を除き、小売店への入店、映画館など文化施設の利用などをワクチン接種完了者と回復者に限定。イベントや私会的会合も同様。2022年2月にはワクチン接種が義務化される見込み。
フランス	1/24にワクチンパスを施行、ワクチンの実質義務化へ。2月中旬から行動制限を段階的に緩和予定。2/1で屋外でのマスク着用義務や着席型イベント会場の人数制限を解除。週3回の在宅勤務も義務から推奨に。
イタリア	非常事態は3月末まで。1/31時点でイエローゾーンが11州2自治県、オレンジゾーンが5州。ディスコやダンスホールは2/10まで閉鎖。
英国	イングランドは緊急時対応策「プランB」を終了して「プランA」に移行。1/26で大半の屋内施設でのマスク着用義務を撤廃、ワクチン証明書や陰性証明書の提示義務を撤廃。3/24で陽性者の自主隔離を終了。スコットランドやウェールズも追随。

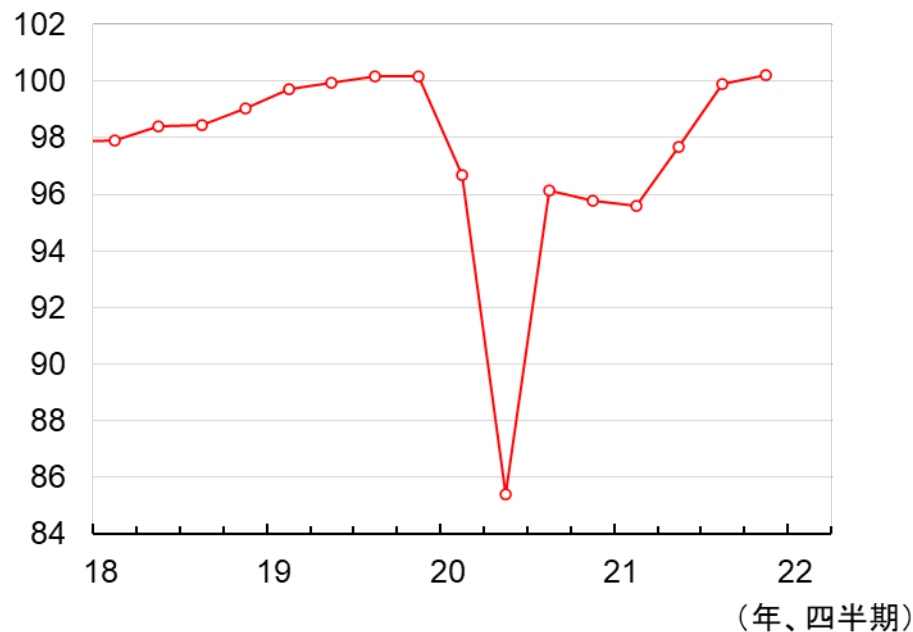
(出所) 各種報道

## ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の2021年10-12月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.3%と、増勢が失速した。オミクロン株の流行に伴う行動制限強化の影響が強くと考えられる。国別にはドイツが前期比-0.7%となって全体の景気を下押ししたが、一方でスペインが同+2.0%と堅調を維持して景気を下支えた。

### 実質GDP

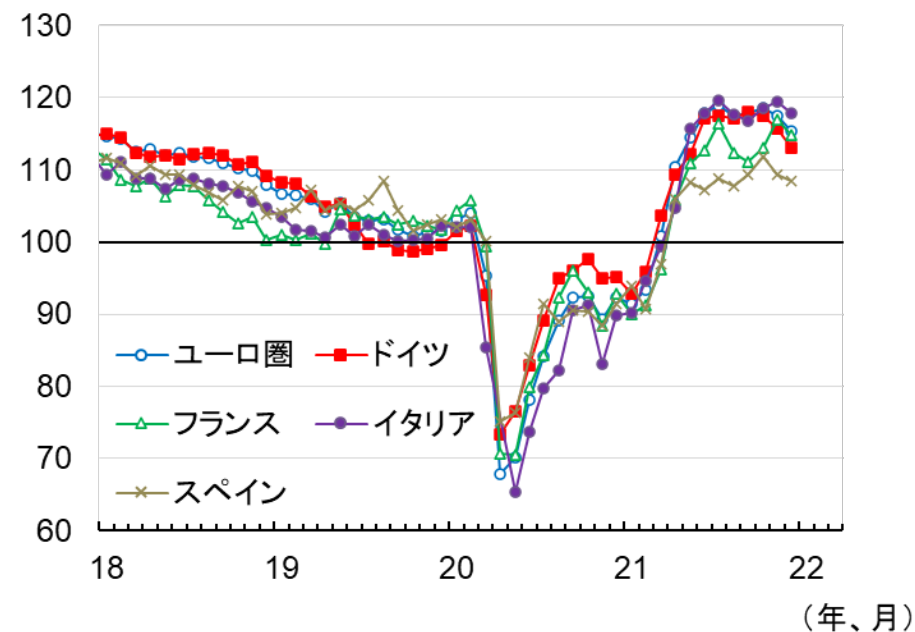
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

### 景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

## ユーロ圏景気概況② 生産は底入れ

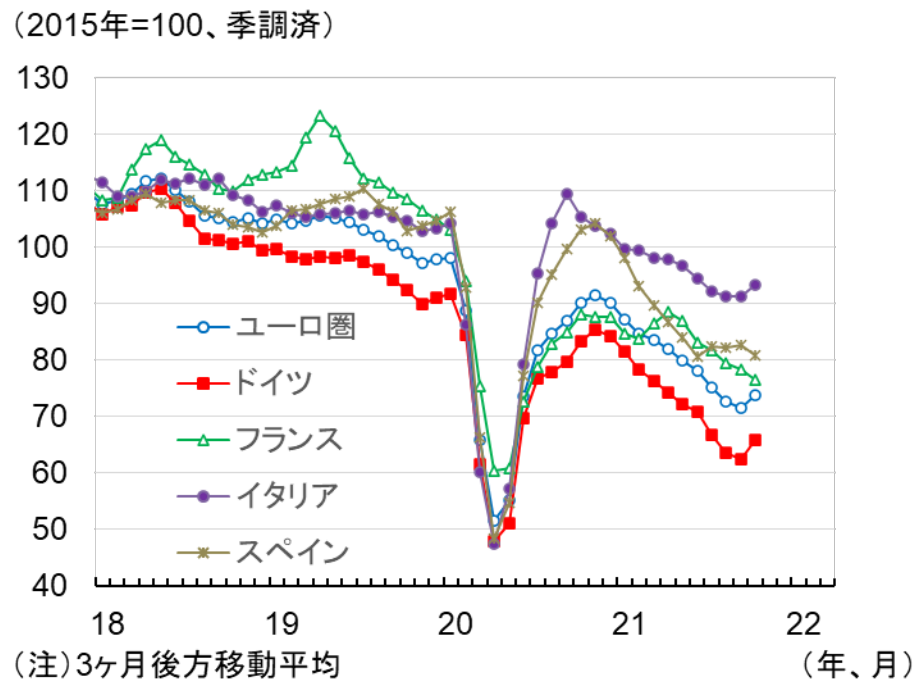
ユーロ圏の11月の鉱工業生産は前月比+2.3%と4ヶ月ぶりに増加し、均した動きは底入れした。鉱工業生産ベースで見た自動車生産台数にも生産の減少に歯止めがかかっており、一部の国は生産が底打ち反転した。

### 鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ユーロスタット

### 自動車生産台数(鉱工業生産ベース)

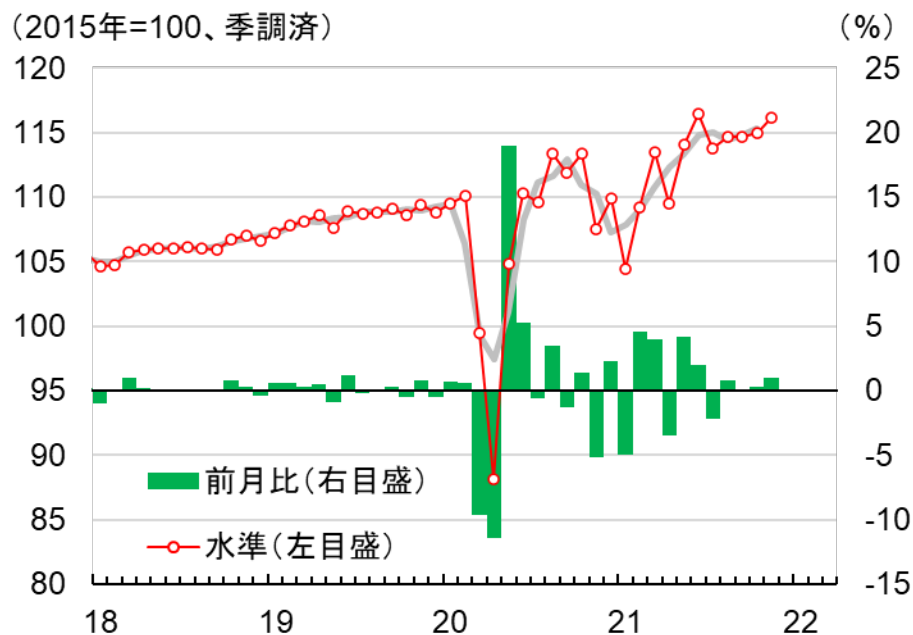


(注) 3ヶ月後方移動平均  
(出所) ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況③ 消費は増加

ユーロ圏の11月の小売数量は前月比+1.0%と増加が続き、均した動きも上向き。一方で、12月の新車販売台数は前月比+2.8%の年率795万台と2ヶ月連続で増加も、均した動きは横ばい。車種別にはEV(電気自動車)などの電動車が堅調である模様。

### 小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ユーロスタット

### 新車販売台数

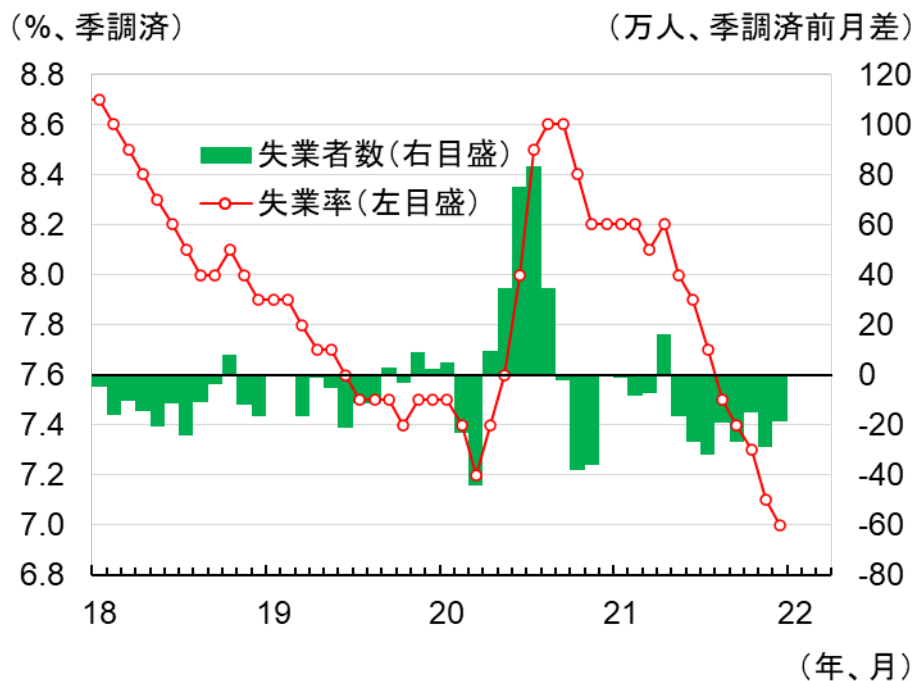


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) 欧州中央銀行(ECB)

## ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は改善

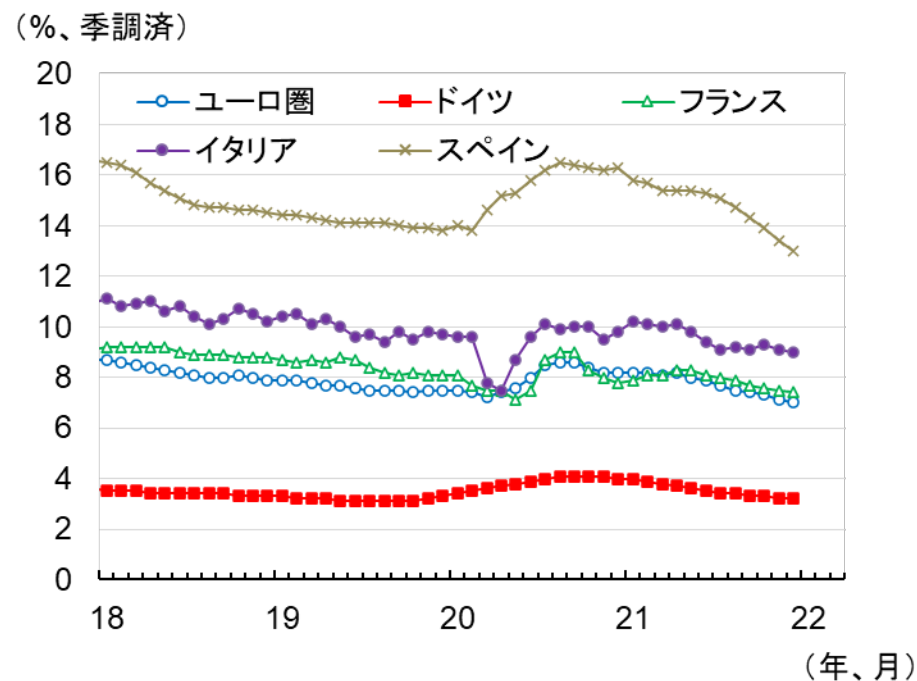
ユーロ圏の12月の雇用統計では、失業率が7.0%と8ヶ月連続で低下、失業者数は前月比18.5万人減とマイナス幅が再び縮小も、雇用は改善している。主要国別に失業率を見ると、各国とも緩やかな低下基調を保っているが、ドイツやイタリアでは下げ止まりの動きもみられる。

### 失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

### 主要国別失業率

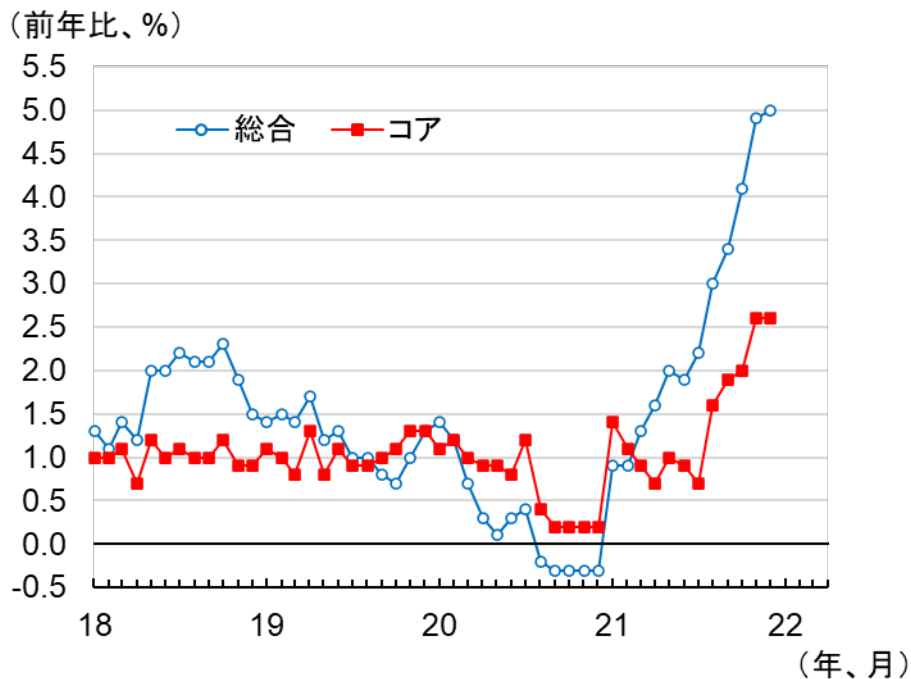


(出所)ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

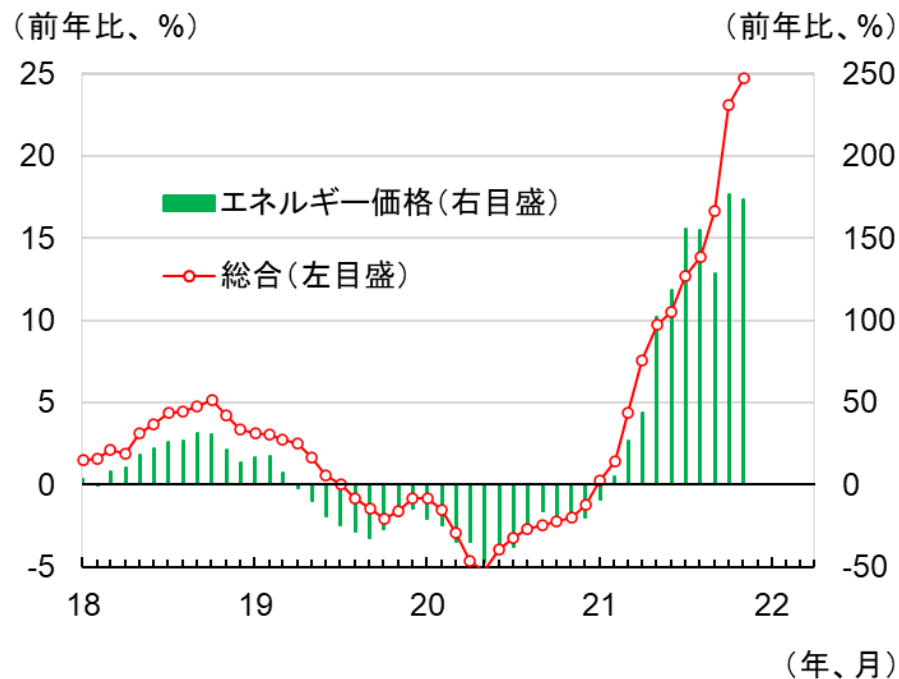
ユーロ圏の12月の消費者物価は前年比+5.0%と上昇が小幅に加速した。先行指標である生産者物価は11月時点で前年比+24.7%と、伸びの加速が続いた。うちエネルギー価格は同+173.2%と、高い伸び率を維持している。

### 消費者物価



(出所)ユーロスタット

### 生産者物価



(出所)ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況⑥ ECBは22年3月で危機対応策を終了へ

ECBは12月16日の理事会で、危機対応策であるパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)を2022年3月で終了すると決定。4-6月期は通常の資産購入プログラム(APP)を現在の200億ユーロから400億ユーロに増額、7-9月期は300億ユーロに減額、10月以降は200億ユーロに戻る予定。次回の理事会(2月3日)は無風の見込み。

### ECBの金融緩和パッケージ

#### ECBの2020年12月理事会での決定の概要

##### 政策金利の据え置き

主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。

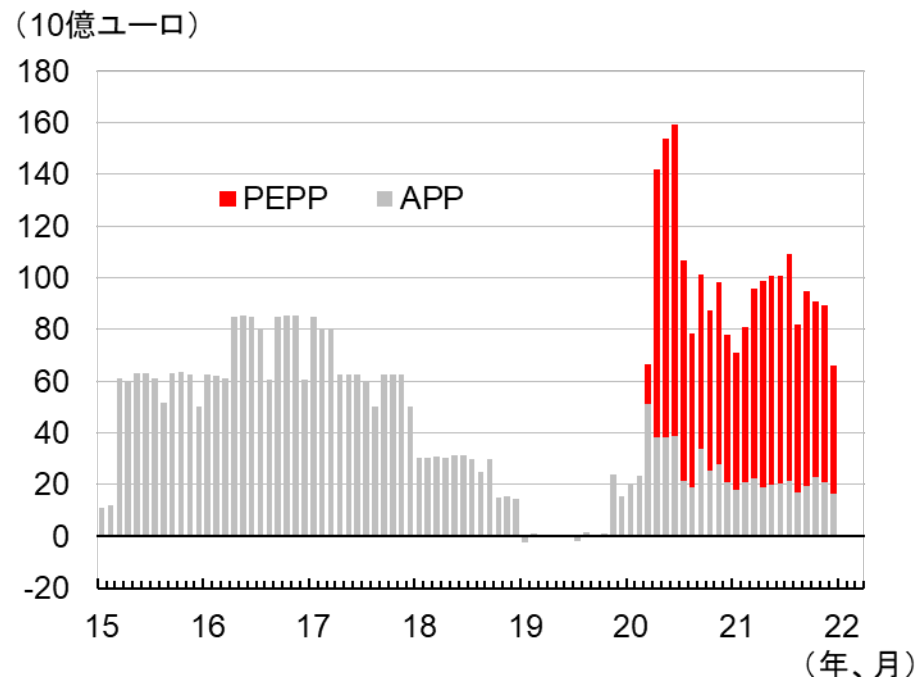
##### 資産購入策の修正

PEPPを2022年3月に終了、再投資は2023年末から2024年末まで延長

現在月200億ユーロで実施しているAPPを2022年4-6月期は月額400億ユーロに増額。7-9月期は300億ユーロに減額した後、10月以降は利上げが肯定される環境まで200億ユーロで購入を継続。再投資は最初の利上げ後も実施する方針。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

### 資産購入の推移



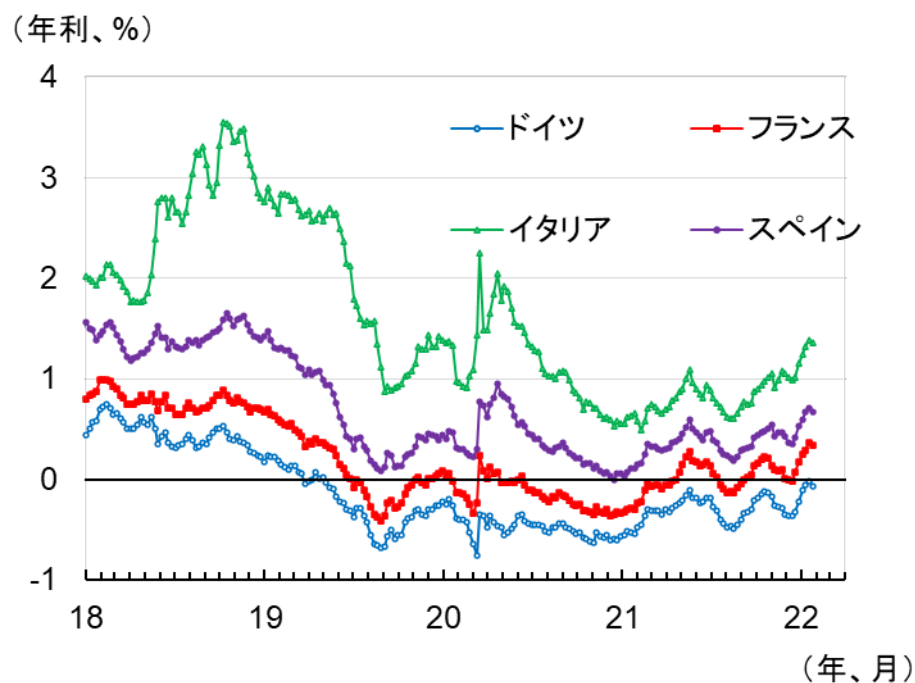
(出所)ECB



## ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

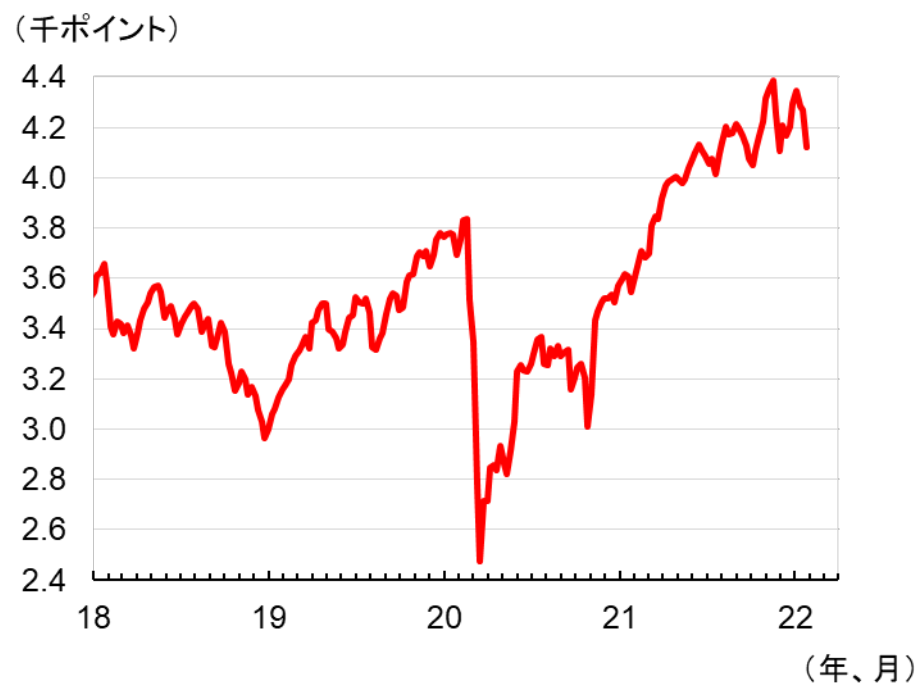
1月のユーロ圏の長期金利は上昇した。ウクライナ情勢が緊迫化したものの、米連邦準備制度理事会（FRB）やECBが金融緩和の回収に向かっていることが金利を押し上げた。一方で、1月の株価は下落した。ウクライナ情勢の緊迫化や金融緩和の回収が嫌気された。

### 長期金利



(出所)ECB

### 株価 (Eurostoxx50)



(出所)STOXX

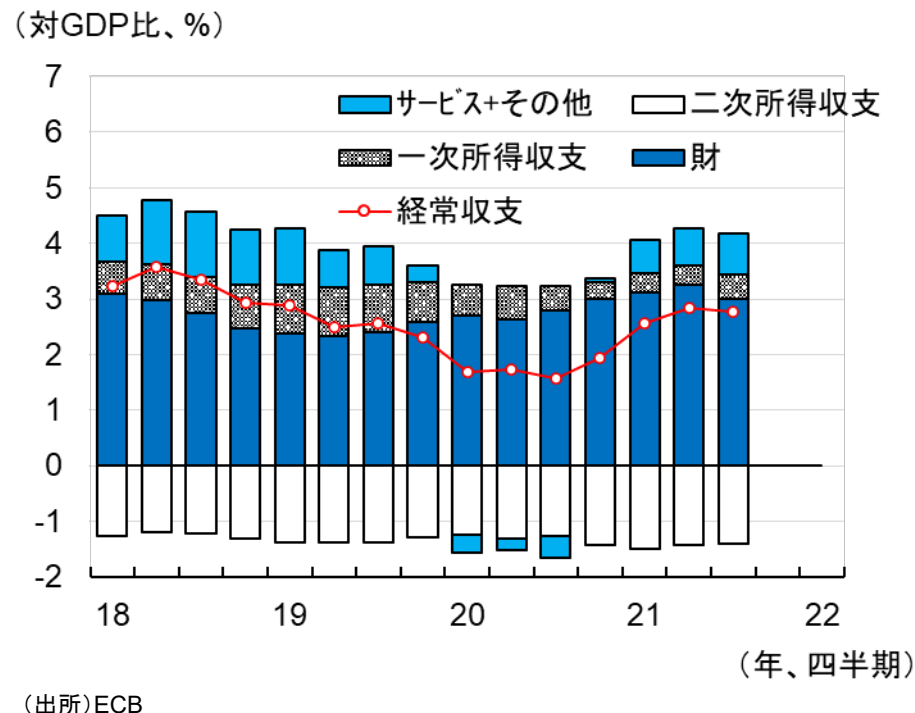
## ユーロ圏景気概況⑧ 対ドル・対円で下落

1月のユーロ相場は対ドル・対円で下落した。対ドルでは、FRBの利上げ観測に加えてウクライナ情勢の緊迫化が嫌気され、ドル高ユーロ安が進んだ。対円でも、リスク回避の流れから円高ユーロ安が進んだ。経常収支は財収支を中心に黒字基調がしっかりしており、実需面からユーロ相場を支えている。

### ユーロ相場



### 国際収支

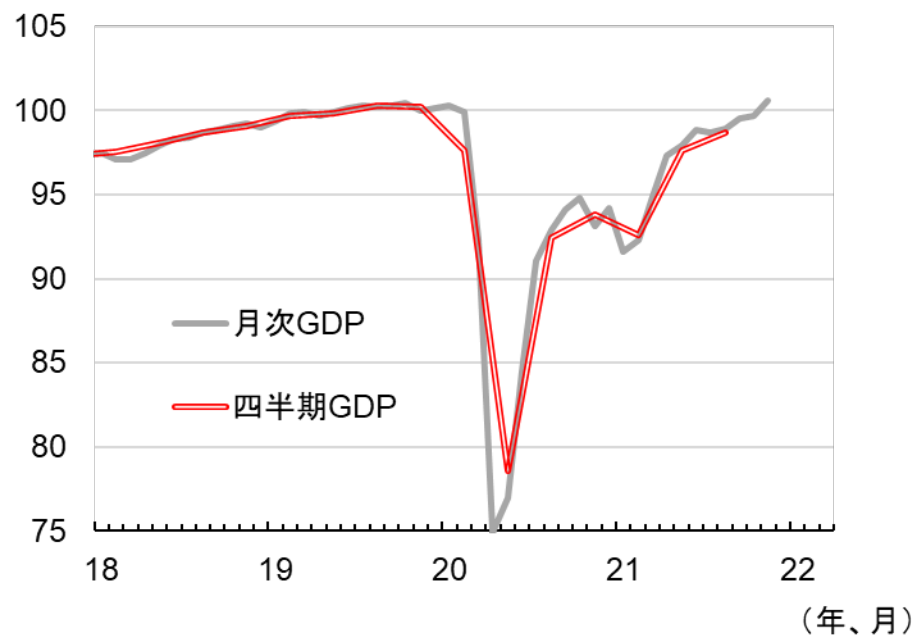


# 英国景気概況① 景気は回復している

英国の2021年7-9月期の実質GDP(確定値)は前期比+1.1%と、4-6月期(同+5.4%)から伸びが鈍化した。一方で、最新の11月の月次GDPは前月比+0.9%と増勢が再び加速、月次GDPの水準は既にコロナショック前を上回っており、景気が拡大局面入りした可能性を物語る。

### 実質GDP

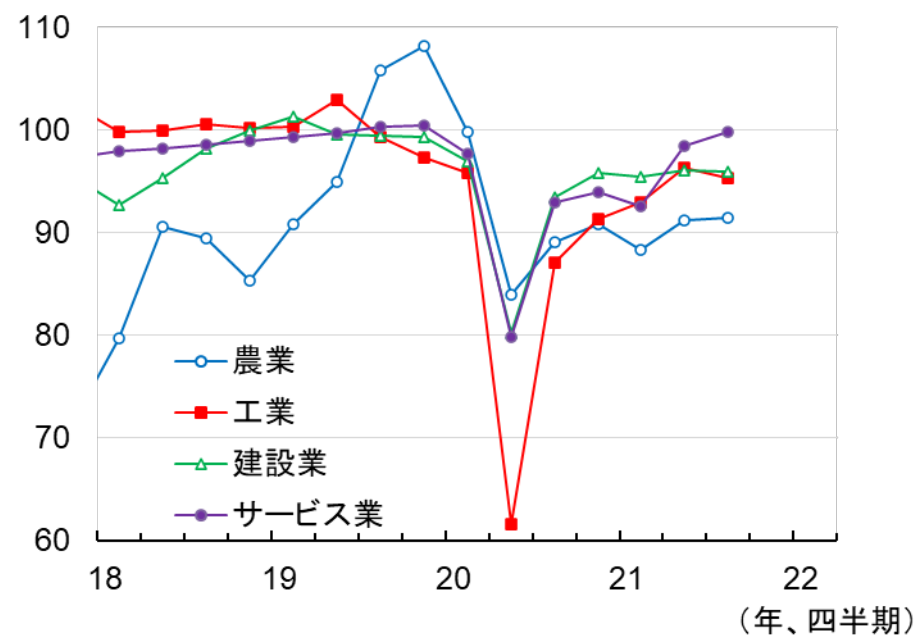
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

### 実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

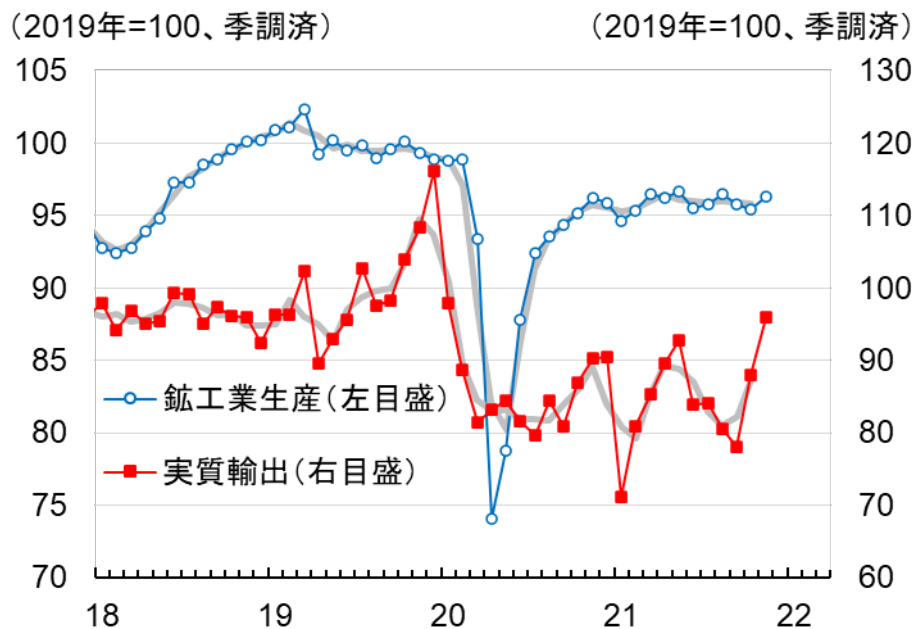


(出所)ONS

## 英国景気概況② 生産は横ばい

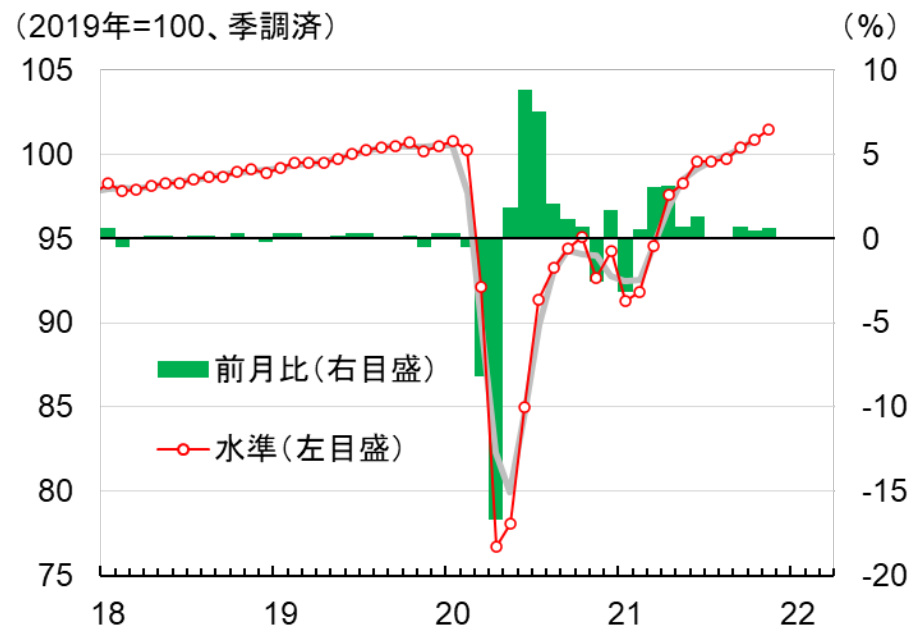
英国の11月の鉱工業生産は前月比+0.9%と再び増加、均した動きは横ばい。また同月の実質輸出も同+9.0%と高い伸びが続いたが、均した動きは一進一退。一方で、11月のサービス生産は前月比+0.6%と再び増勢が加速し、均した動きも上向きと回復が続く。

### 生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

### サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

## 英国景気概況③ 消費は一進一退

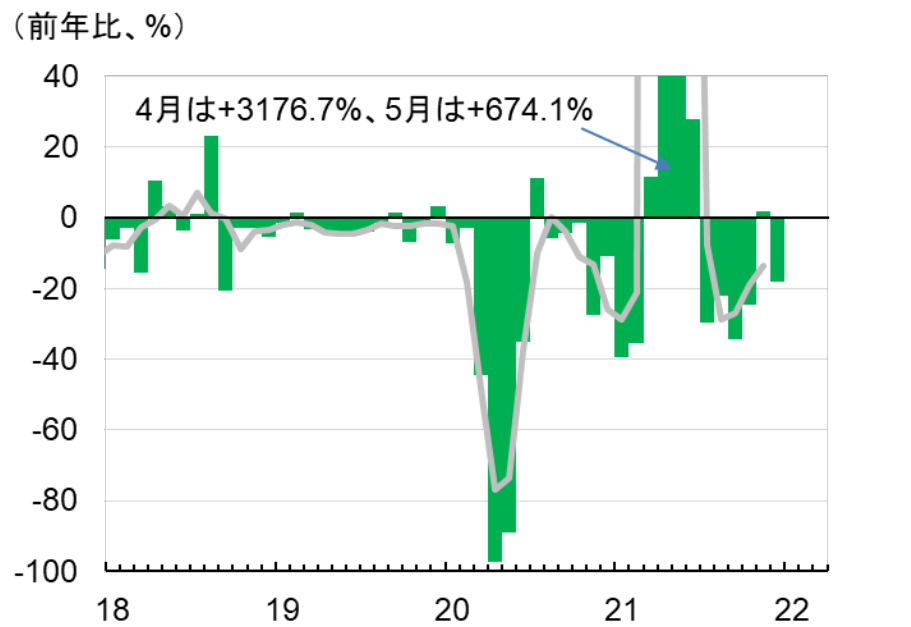
英国の12月の小売数量(除く石油)は前月比-3.6%と減少に転じ、均した動きも一進一退で推移。一方、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比-18.2%(10.9万台)と再び前年水準を下回り、均した動きもマイナス幅が縮小しているとはいえ、依然として前年比-20%近い水準である。

### 小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS (年、月)

### 新車販売台数(乗用車)

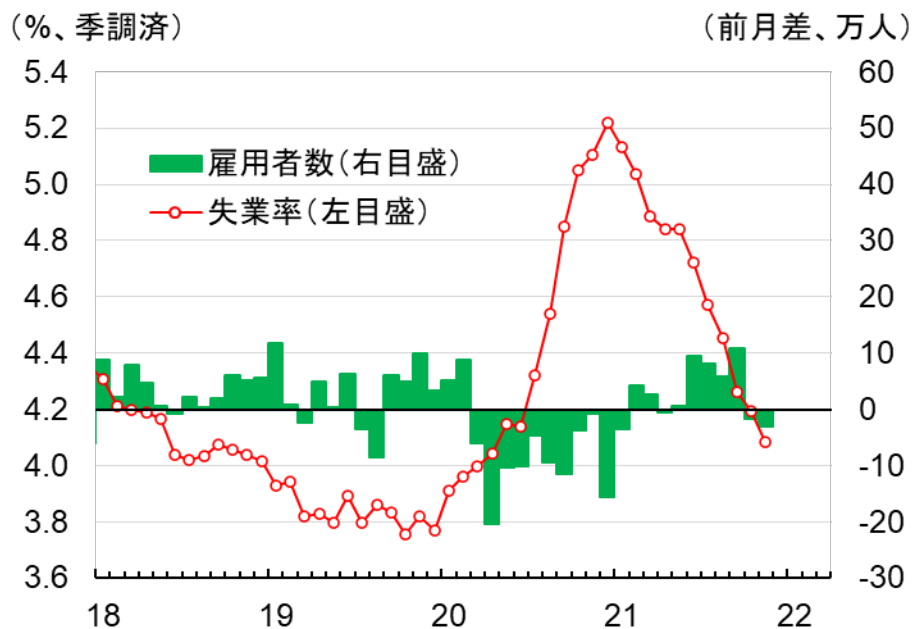


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS (年、月)

## 英国景気概況④ 雇用は改善が足踏み

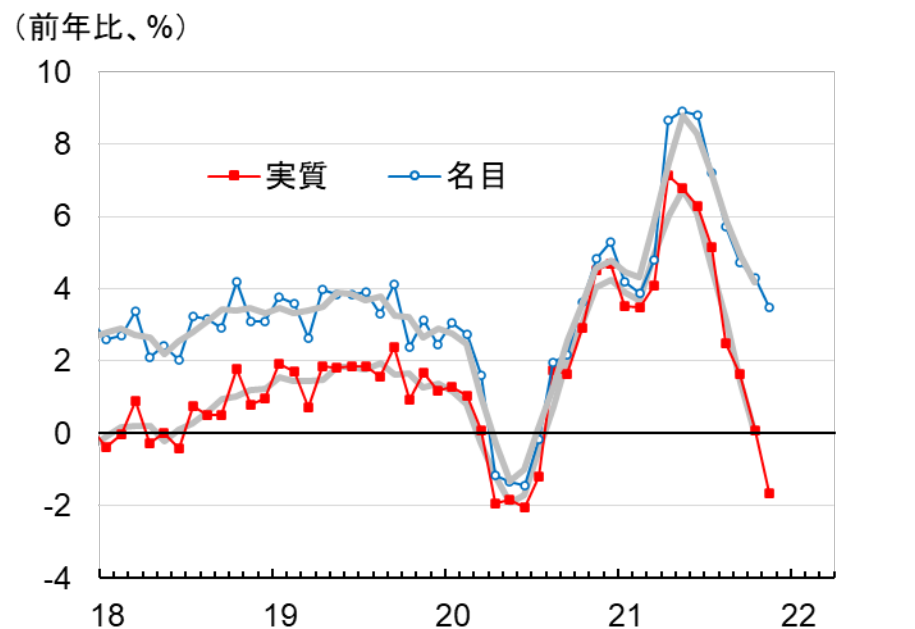
英国の2021年11月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)は、失業率が4.1%に低下した一方で雇用者数が前月比3.0万人減と2ヶ月連続で減少するなど、雇用情勢は改善が足踏みしている。賃金の増勢は名目ベースでは伸びの鈍化が続き、消費者物価で実質化した実質ベースでは前年割れに転じた。

### 雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値  
(出所)ONS

### 平均賃金(週給)

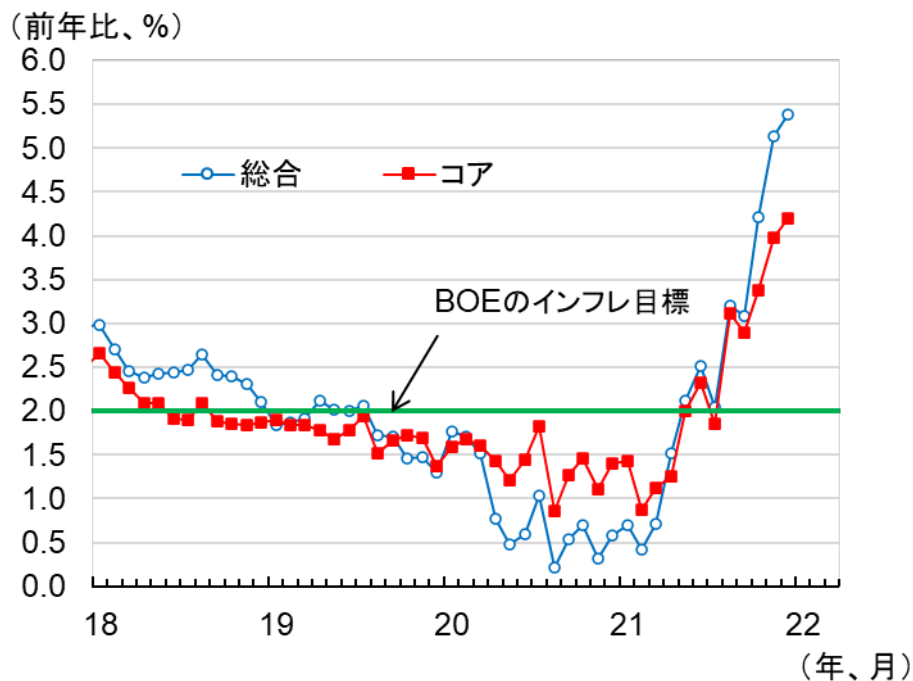


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

## 英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

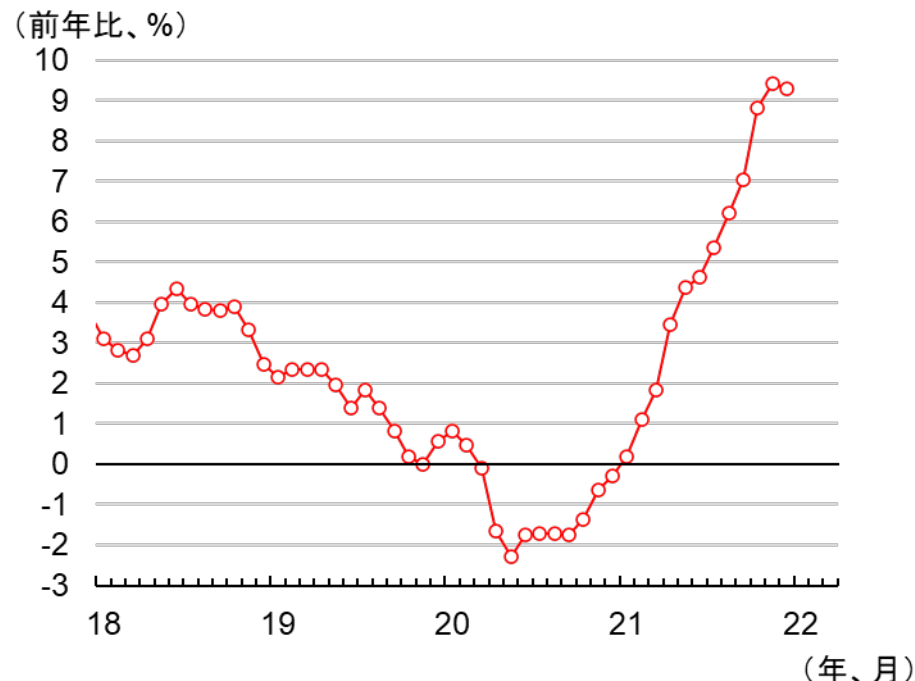
英国の12月の消費者物価は総合指数ベースで前年比+5.4%と伸びの加速が続いており、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。先行指標である生産者物価は前年比+9.3%と前月(同+9.2%)から伸び幅がわずかに縮小も、高止まりしている。

### 消費者物価



(出所)ONS

### 生産者物価(投入価格、除く関税)

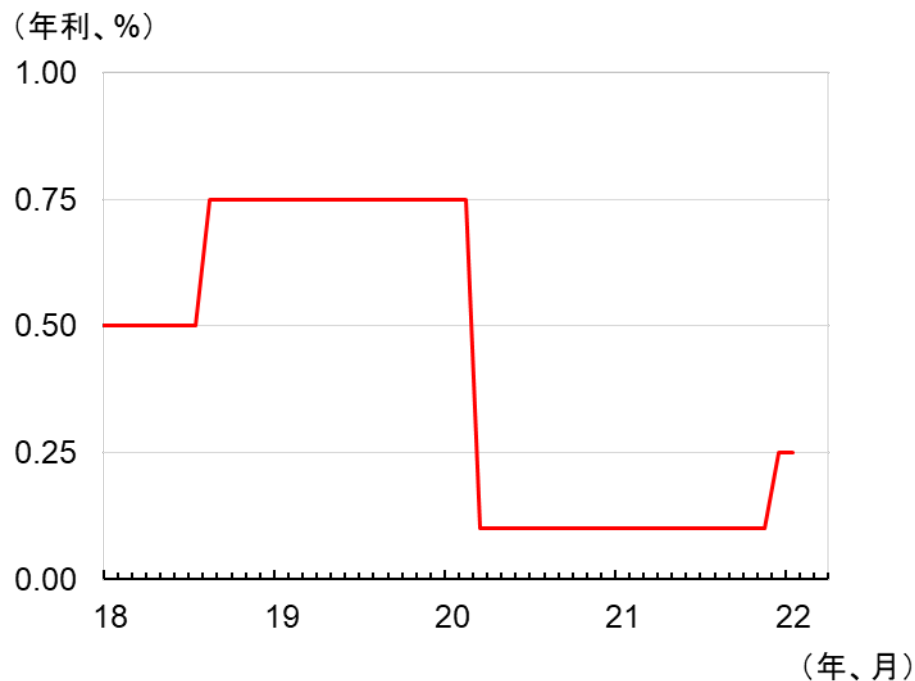


(出所)ONS

## 英国景気概況⑥ 注目されるBOEのバランスシート圧縮のタイミング

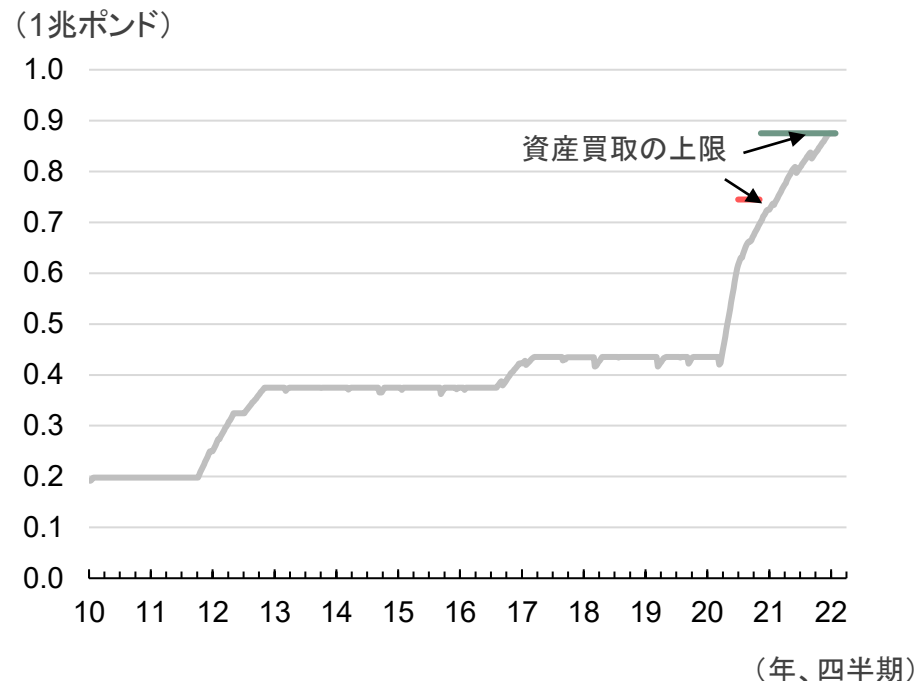
イングランド銀行(BOE)は12月16日の金融政策委員会(MPC)で想定外の利上げを行い、政策金利(バンクレート)を年0.1%から0.25%に引き上げた。次の焦点はBOEによるバランスシート圧縮のタイミングであり、BOEは政策金利が0.5%に達した場合、その着手に向かう方針を示している。次回のMPCは2月3日。

### 政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

### 英中銀の国債保有高



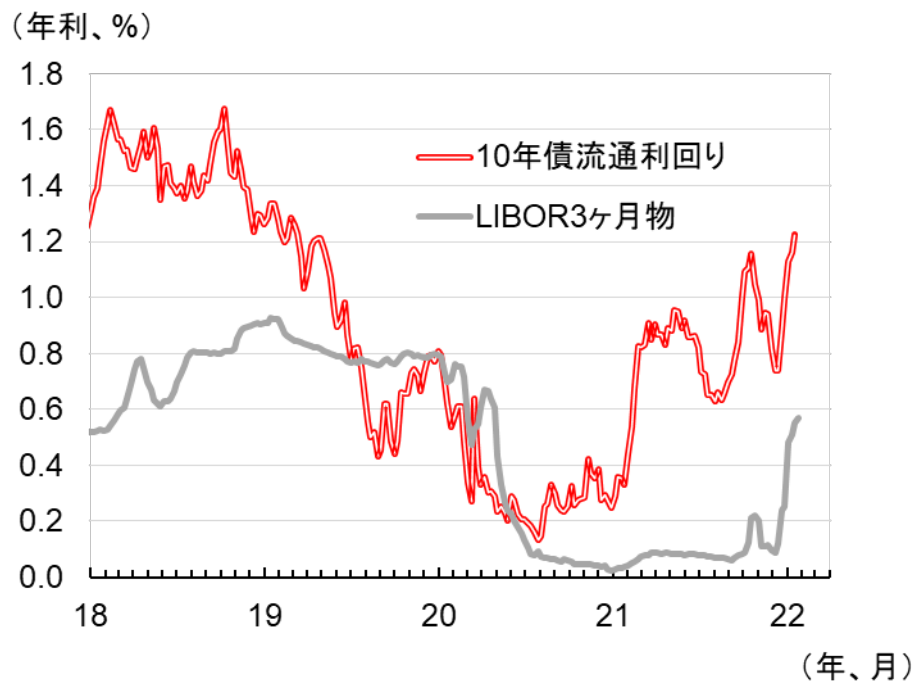
(出所)BOE



## 英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は下落

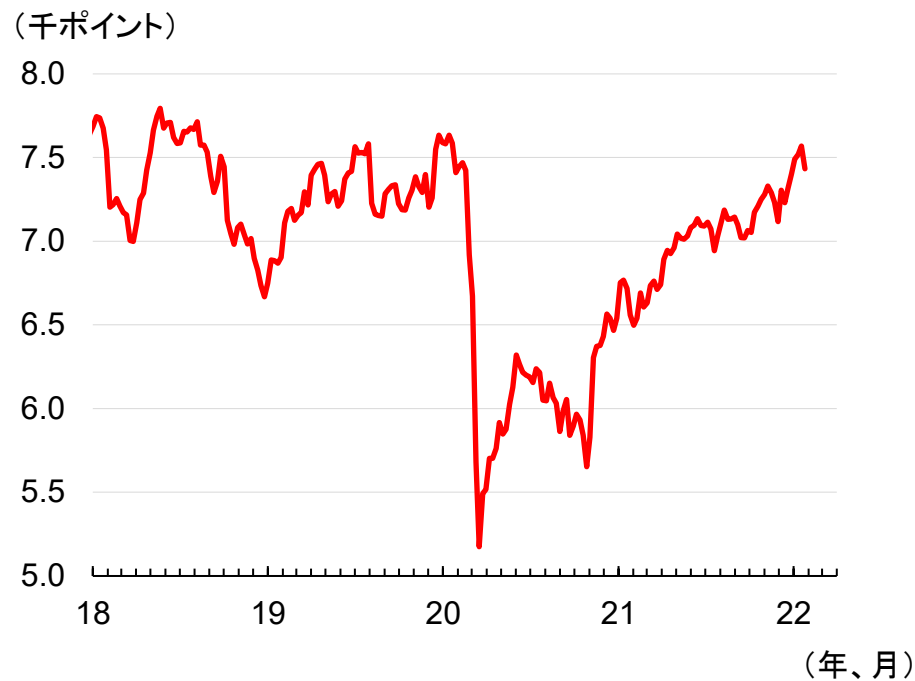
1月の英国の長期金利は上昇した。米連銀(FRB)が資産購入の段階的減額(テーパリング)に臨んでいることに加えて、BOEが予想外の利上げを実施したことが金利の上昇圧力になった。一方で、株価(FT100指数)は下落した。ウクライナ情勢の緊迫化が嫌気された。

### 金利



(出所)BOE

### 株価(FT100指数)

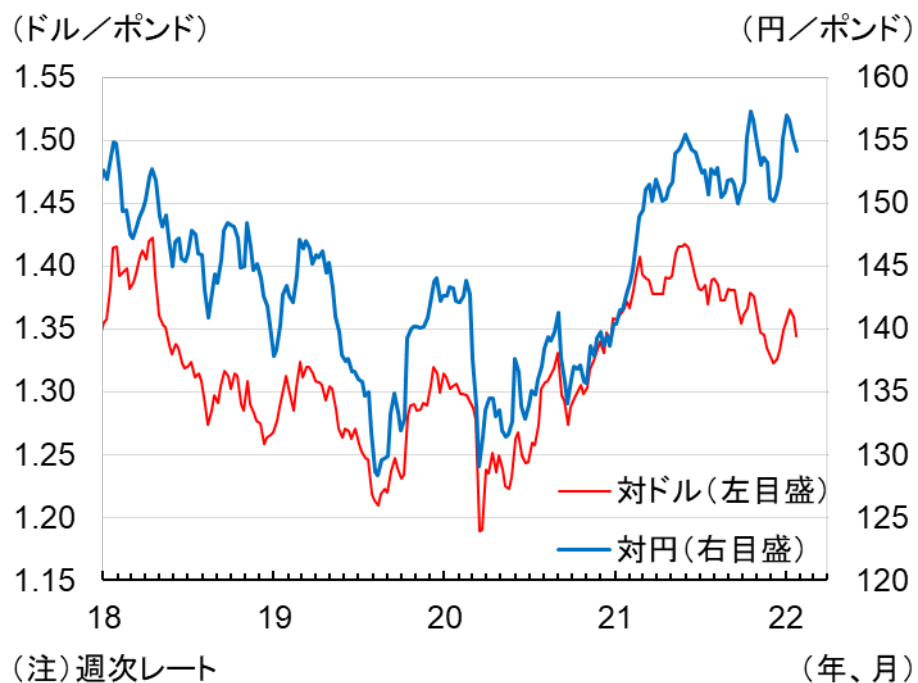


(出所)BOE

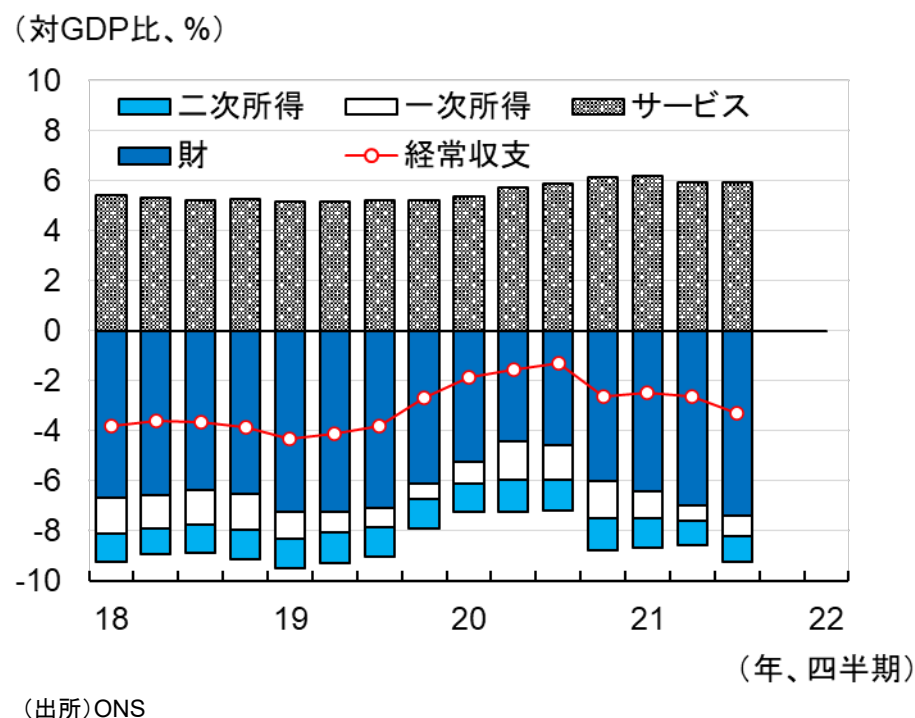
## 英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド安

1月のポンド相場は対ドル・対円で下落した。ウクライナ情勢の緊迫化を受けて高リスク通貨であるポンドに対する売り圧力が強まった。国際収支は貿易収支の赤字が拡大しており、実需面からのポンド買い圧力は弱まっていると判断される。

### ポンド相場



### 国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください